

ストックへの遠赤色（FR）光照射による切り花長伸長

春季に出荷するストックでは草丈が不足する傾向にあり、問題となっている。そこで、春季出荷の作型で遠赤色（FR）光を含むLED電球や白熱電球による照射の効果を検討した結果、切り花長が長くなる効果がみられ、品質向上につながる事が明らかとなった。

内容

淡路市のストックは高品質なことから市場での評価が高いが、春季以降は切り花長が短くなり品質が低下するため、その対策が求められている。そこで、草丈伸長効果が知られている遠赤色光の照射について検討した。

ストック「ピンクアイアン」を2016年2月10日は播種し、3月31日に淡路農技アクリル温室内に株間、条間とも12cmで8条植えた。照射は、定植翌日から遠赤色LED電球及び白熱電球により、日没後4時間で行った（写真）。電球直下を中心に、畝の長辺方向へそれぞれ50cmの部分（8列）をLED強区、白熱強区、その外側100cm（8列）をLED弱区、白熱弱区とした。照射区及び無処理区の計5区、3反復とした。

その結果、切り花長は無処理区と比較してLED強区、LED弱区、白熱強区で長くなり、切り花重がLED強区で軽くなった（図）。開花日は、いずれの区も5月19日で、節数には差がなく、茎の硬さはすべての区で硬くなり（データ省略）、十分な切り花品質を維持していた。

今後の方針

遠赤色光（遠赤色LED電球、白熱電球）による切り花長伸長効果と、温室内トンネル被覆による開花期延長・切り花長伸長効果の組み合わせが、開花期と切り花形質に及ぼす影響について検討する。

石上 佳次（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

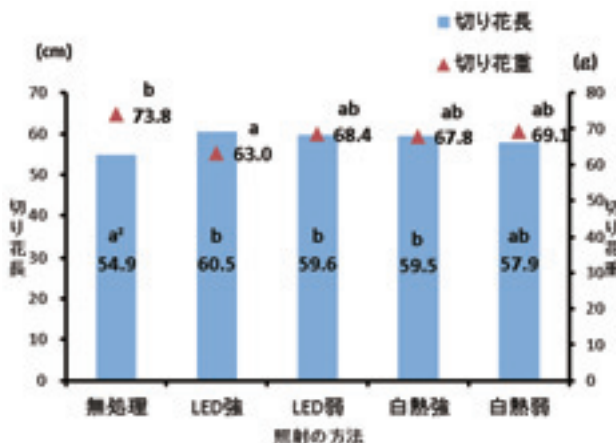


図 照射方法がストック「ピンクアイアン」の切り花長、切り花重に及ぼす影響

異なるアルファベット間に有意差あり(5%レベル)



写真 照射の状況（手前：遠赤色LED電球、奥：白熱電球）